２２－７－１
平成２７年４月度　修習技術者研修会

1.　「平成２７年４月度 修習技術者研修会」報告

2015.4.13
修習技術者支援実行委員会
委員補佐　石附、松下

2.　研修会概要

日　時　平成 27 年 4 月 11 日（土）
13:00～19:45
主　催　社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル５階

3.　研修会の内容

修習技術者研修会 司会	13:00～17:00 和田　祐二
開会挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	13:00～13:10 神下　　栄
セミナーの趣旨説明	13:10～13:15 和田　祐二
講演１ 「海外業務における コミュニケーション」 技術士（金属、建設総合技術監理部門）	13:20～14:20 笹口　裕昭氏
講演２ 「調査・設計業務における コミュニケーション」 技術士（建築部門）	14:30～15:40 古屋　美伸氏
休憩	15:40～16:10
ディスカッション （全員参加型）	16:10～16:50
講評 修習技術者支援実行委員会 副委員長	16:50～17:00 川村　智
先端複合技術研究発表会 「樹脂部品用卓上型 ディスク式射出圧縮成形機の製作」	17:10～17:40 伊井　宏聡氏
発表に対する質疑	17:40～18:00
情報交流会	18:10～19:45

4.　研修会の参加者

今回の研修会は、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者（修了者を含む）を対象とした修習技術者研修会であった。修習技術者を中心に３６名が参加した。修習への高い関心がうかがえる。

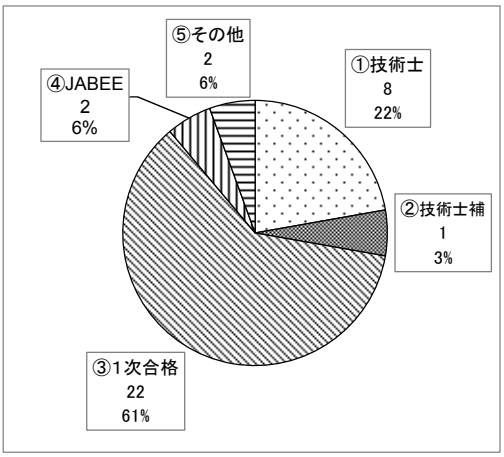

図 1　参加者ステータス

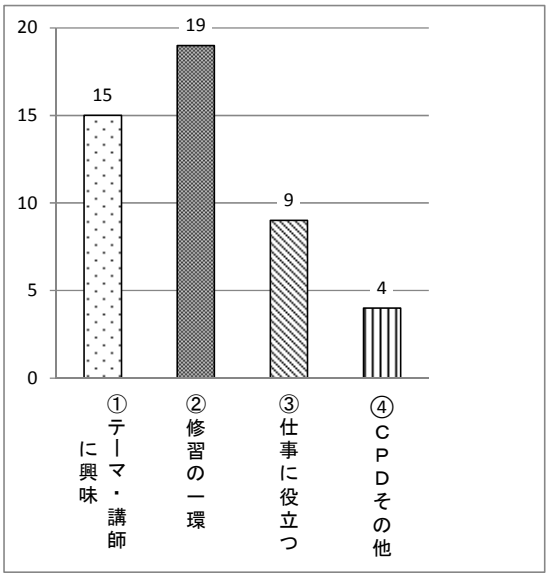

図 2　参加動機（複数回答）

5.　研修会の状況について

今回のセミナーでは、まず修習技術者支援実行委員会の神下栄委員長の開会挨拶で、専門能力をもって、いかに相手に伝えるか、コミュニケーション能力を向上して欲しい。若い方は、外に出て、どうコミュニケーションをとるか、経験豊富な方は、これから若い人にどう指導していくかを学んで欲しいとの話があり、司会者よりセミナーの趣旨説明があ

った。

続いて、「海外業務におけるコミュニケーション」と題し、笹口裕昭氏の講演があった。次に、「調査・設計業務におけるコミュニケーション」と題し、古屋美伸氏の講演があった。二つの講演を聴いて、参加者より質問票を提出してもらい、それをベースに全員参加型のディスカッションが行われた。

◆　**講演１について**

笹口裕昭氏の講演は、「海外業務におけるコミュニケーション」と題して行われた。講演では、笹口氏の豊富な海外業務の変遷について説明され、海外で仕事をする際には広い視野、コミュニケーション能力、専門技術の絶対的な知識が必要であると説明された。外国人とコミュニケーションを取るには、自分の意識の持ち方、前向きな気持ちが重要であると熱く語られた。

写真 1　笹口裕昭氏の講演状況

◆　**講演２について**

古屋美伸氏の講演は、「調査・設計業務におけるコミュニケーション」と題して行われた。講演では、古屋氏の、大鳴門工事に携わった経験において、設計・施工でコミュニケーションの基礎を学ばれた経験をお話された。人の話を正確に良く聞く。ていねいに正確に説明することが重要であると語られた。次に、プロポーザルにおけるコミュニケーションを３つの事例で技術提案書におけるコミュニケーションについて説明された。業務の中で何が課題かをしっかり位置づけして、課題解決していくことが重要であると語られた。さらに、業務運営を管理及び業務における課題とその解決策を、発注者から出た課題の例、請負者がミスを犯した場合の対応事例の話を頂いた。最後に、発注者の業務評価とそれがもたらす効果についての説明があり、委託業務等成績評価要領に基づいた評価で、定量的に評価されていることを理解して業務に取り組んで欲しいと語られた。

写真 2　古屋美伸氏の講演状況

◆　**ディスカッションについて**

会場から講演者への質問事項をアンケートし、その中から議題事項を抽出して、全員参加型のディスカッションを行った。

【チャレンジングな仕事のリスク管理】

笹口氏：海外では、工具ひとつ、部品ひとる調達するにもリスクがある。また、法規制について理解して、仕事の範囲を事前にきっちり調べることで、ジョイントベンチャー、コストアンドフィッツに取り組むべきである。

【日本では品質とかの考え方が共通であるが、海外ではこのようにうまくいかない場合の対処法について】

笹口氏：私の経験では、海外にて、一緒に行っている日本人同士のコミュニケーションの方が難しかった。日本人同士では、神経を使って話をしなければならないが、外国人の人との方が素直に話ができた。

古屋氏：私の場合は、日本人同士のつきあいがほとんどであった。相手の経歴、背景をインプットして、相手に対して説明の仕方を変える努力をしている。

会場：個人の背景としてどのような点を気

にしてやってきたか？

古屋氏：人と人のつながりを強くして、次に生かす努力、また一緒に仕事をやりたいと相手に思わせるようなコミュニケーションをとることで、自分の財産としていく。

写真３　ディスカッションの状況

◆　**川村副委員長の講評**

川村副委員長より、講評の代わりとして、御自身の失敗事例の紹介があり、海外における、相手の価値観を理解しないと、こちらがよかれと思ってやったことが、相手には、自分の仕事を取られたと受け取られてしまうことがあるとの危うさをお話された。また、メールによる伝達不足から、予期せぬ方向へ話が進展してしまった事例なども紹介された。最後に、ディスカッションでは、もっと積極的な質問、意見を出すようにとのお言葉を頂いた。

写真 ４　川村副委員長の講評

6.　先端複合技術研究発表会について

先端複合技術研究発表会は、伊井　宏聡氏による“樹脂部品用卓上ディスク式射出圧縮成形機の製作”と題しての発表であった。小型樹脂部品を成形するため、従来のスクリュー式から新たにディスク式へ改良した超小型卓上樹脂成形機を設計した。金型が小さいので、金型温度を上げておかないと樹脂がすぐに固まってしまいショートショットが発生してしまうため、独自の対策を行うなど、小型金型における独自の工夫がされていた。基本的にできないものをどうやってできるようにするかを、常に考えながら、開発しているとのことであった。

写真 ５　伊井氏の発表状況

7.　情報交流会の状況について

情報交流会には、今回も大勢の方が参加した。特に今回は、はじめて参加された方が多かった。２名の講師も参加され、ご講演や、ディスカッションの内容などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。また、今後の修習活動に向けても、積極的な情報交換が行われた。

写真 ６　情報交流会の状況

以　上